

クリちゃんの動物園散歩（一）

根本進

前回、スイスのチューリヒの動物園でひぐまの赤ちゃんを見ていて、それまで機嫌の悪かった一家族が仲よしになつた話をしましたが、動物の親子の様子は本当に可愛らしく、ユーモラスで、どこの動物園へ行つても一番の人気です。

私が上野動物園へ散歩に行きはじめのころ、猿山で赤ん坊を抱いたニホンザルを見つけると、あつという間に時間が終つてしまつて、その日は他の動物は見られなくなつたものです。

そのころ上野のカバの飼育担当の係員は西山登志雄さんで、赤ん坊が生れるころになると会つてもソワソワ落着かづけが実に厳しいのに驚きました。母親が食事中などに赤ん坊が自分勝手に離れたり、危い方向へ遊びに行こうとするコップの水にいきなり指をつっこんで水温を気にしたりして、片手でその足を強くひっぱって引き寄せたりします

が、そのひっぱり方一つで、こどもには母親の機嫌がよく次第で、もしも自分の食べようとするものに、こどもが手など出そるものなら、それこそすごい剣幕で怒ります。この辺はやっぱり動物だなと思う事もありますが、この御機嫌はいつも厳然としています。教育に自信がなくなると、すぐどこかの先生に聞いて、そのたびに方針が変る人間の母親より、こどもにとって親の気持が解りやすいかも知ません。

そのころ上野のカバの飼育担当の係員は西山登志雄さんで、赤ん坊が生れるころになると会つてもソワソワ落着かなくて、一緒に喫茶店に行くとウェイトレスが運んでくれるコップの水にいきなり指をつっこんで水温を気にしたりして、カバのお産は大抵プールの中です。そのためにはプールに

はいつも新しい水を張っているのでした。ある冬の夜でした。仕事で起きていたところへ電話でカバのお産を知らせてくれました。車で駆けつけたのは二時だったと思います。

シーンとした温室のようなプールに、誕生したての赤い小さなかたまりが母親の鼻さきに浮いて耳を動かしています。

「なんだ、もう無事にお産が終ったんですね」と私はプールサイドにいた西山さんの耳もとでこっそり言うと、彼はそれよりもっと小さな声で答えて、

「実はこれからの方がもっと大変なんです」

母子とも水中において、ときどき息をする以外全く静かです。次に何が起きるのだろうと見ていると、まず赤ちゃんが潜つてお母さんのお腹の方向へ泳ぎはじめました。「あ、そうかオッパイを探すらしいぞ」私もじきに気がついたのですが、なにしろお母さんの体は大きいから大変です。

体にそつて螺旋状にまわりを廻ります。それに呼吸を合わせるようにお母さんもゆっくり体を反対方向に回転させて行きます。赤ちゃんの呼吸はそう長くは続かず、途中で探すのをあきらめてボッカリ上ってきて、ブーッと息をつ

き、またしばらくお母さんの顔のそばにいます。それからまた少し経つとまた潜つて……これを繰り返す中に、

「しめた、見つけたぞ！」

突然西山さんが嬉しそうに大きな声をあげました。

赤ちゃんがとうとう母親の股間にオッパイに吸いついたらしく、口の横から白い乳が水中に流れているのが見えました。私はいまやっと、糞で汚れるプールの水を毎日新しく入れ替えていた理由がわかつたのです。乳首を見つけられず育たなかつた赤ん坊もいるそうです。

「人間は親子の対話がどうの、こうの言つたりしているけど、カバの親子なんかなんにもしゃべらないからね……」汗をふきふきそう言つたあの時の西山さんの言葉が印象的でした。

動物人形といえば、熊、兎、犬、猫……なんでも可愛らしいこどもに作つてあります。ホンモノで全く人形みたいなのはパンダの赤ちゃんでしよう。赤ちゃんといつても、生後五ヶ月でしたが、北京動物園で抱かせてもらつたことがあります。それは日本から、昭和四十八年、お相撲さん一行が中国へ行った時の事です。

中国からパンダが贈られたお返しに上野動物園から、中

その時驚いたのは、全く可愛い顔に似合わず重く、力が強く、特にすごい爪でした。田辺獸医のズボンのどこかにひっかかったと思った瞬間、ビーッと布地が大きく引き裂けてしまった程です。あれなら自然の中でも、木のぼりはさぞお手のものでしょう。



北京動物園にはこの外に、他所では見られぬシシバナザル、ターキン、オグロヅル、黒狼、紅狼など、いろいろな珍獸がいましたが、國民服姿のお客さんはそんな世界の珍獸を知つてから知らずかとも長閑な散策気分で見物していました。園内が上野より広々としている点も含めて、つまりとても大陸的な感じがしました。

川飼育課長と田辺獸医がニホンカモシカを運び、私もそれについて見物をさせてもらいました。私は五四の成獸パンダを見たあとで、もう一つの空の放飼場の中へ導かれ、そこへ飼育担当の女性、白さんと葉さんが、昼寝から目覚めたばかりの赤ん坊を運んできて、私たち一人一人に抱かせててくれました。

(漫画家)

特に東洋的で私の気に入ったのは金魚の展示で、露天に木製の大きなたらいが沢山並んでいて、見物客はその水面に顔を近付けて水中の金魚に見入っています。日本なら縁日の露天商に集まる人のように、或は個人の住宅ならベランダの水槽を見せてもらう隣人たちのように、私には肝心

の金魚の方は貴重な品種かどうか解りませんでしたが、眺める人たちの様子は誠に庶民的で楽しそうな雰囲気でした。